視　察　報　告　書

報告者氏名　小田桐　たかし　　㊞

１　委員会名

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・周辺特別委員会

２　期　　日

令和２年１月２０日（月）～同２１日（火）１泊２日

３　視察地及び調査事項

（１）１月２０日（月）　大阪府大阪市

ア　天王寺公園エントランスエリア魅力創造・管理運営事業について

（２）１月２１日（火）　兵庫県神戸市

ア　フルーツ・フラワーパーク事業について

４　所感等

■大阪市―天王寺公園の取組み

駅前都市公園の再整備として、経済的に自立し、人格が形成された「大人」の視点なら、オシャレ、可愛い、“映え”スポットなど成功した事例の一つといえる。民間的発想が随所に活かされており、新たな発見（乳幼児を対象とした玩具メーカーのサービス提供、ロッククライミングやアスレティック、公園との一体化（空間・利用方法）を考慮した飲食店の配置や品ぞろえ）もできた。

特に、観光拠点の目玉となった「あべのハルカス」など都市的再開発と、四天王寺や参道を中心とした歴史的な都市型発展が進められて地域において、地域内外から人を集める憩いの場、癒しの場として事業展開がされている。

いっぽう、経済的格差が公園利用者に突き付けられる構造、特

に日々「遊び」を体験する学齢期の子どもたちにとって、自由になる遊具がない整備であることも注視しておく必要がある。また災害を想定した防災対策の取組みには弱さがあった。地域住民にとどまらず、交通結節点であり、帰宅困難者への支援拠点となる駅前広場だけに、もったいないと思われた。

本市の運動公園は、セントラルパーク駅から徒歩２分、しかも駅から公園まで建物で遮るものがない事から、天王寺公園のように広い芝生効果で視覚的「癒し」空間（空が広く見える「ヌケ」感や解放感）の演出が格段に広がる可能性があり、TX 沿線でも視覚効果はピカイチといえる。但し、長きにわたり成長した樹木を活かした公園整備を一部変更することから十分な協議が必要である。

また公園内で試行され始めた BBQ について、今後、閉鎖的・晴天型空間だけではなく、様々な形・天候でも楽しめる発想転換、特に公園他施設と一体的利用ができ、視界的空間を遮らない配置とすることで、BBQ 利用者にとどまらず、公園利用者、アウトドア愛好家との「交流」（利用者同士の自発的声かけ、小さな独自イベントの開催、視覚に入る）が図れるような公園再整備も魅力的であると考える。

さらに、飲食店等のサービス提供の場合、施設は２０年で減価償却できる簡易型として、内部もパーテーションなどで自由に模様替えやリノベーションできる施設のほうが時代や流行をとらえることを天王寺公園の再整備で学べた。また、天王寺公園で実施されていた深夜帯の警備は、公園内の形状、成長した樹木の多さから死角が多く、公園灯が行き届きにくい運動公園及びその周辺の安全確保上、大いに参考にできると思われた。

■神戸市―フルーツフラワーパークの取組み

バブル時代の申し子的施設整備があることから、発想が制限されながらも、周辺のアウトレット施設等の集客力を活かし、敷地の細分化、投資的経費の大幅抑制でも再出発に成功した事例の一つといえる。

特に、アレもコレもと流行りに振り回されず、農業振興という原点に施設の発展方向を整えたことで、魅力を倍増させた取組み（飲食店やホテルでの新鮮野菜提供、６次産業化など）は経済効率上軽視されがちな農業振興へのアンチテーゼとなったと捉えられる。

本市において、新川耕地・インターチェンジ周辺での道の駅・ハイウエイオアシスは、様々な制度から相当な時間を要し、貴重でかけがえのない農地をタネ地とするだけに地権者の合意を前提に、慎重な議論が欠かせない。そのうえで、もし整備するとすれば、東側に富士山とスカイツリーが望める広い空間で、季節に応じた花々を楽しめる土地柄かつ本市の中心点という魅力が大いに発揮できる地域といえる。高速からも一般道からもカップルや家族連れが楽しみを体感し、休憩ができる施設配置等が必要と思われる。またイチゴの摘み取り体験を含んだ農業経営の提供、新鮮野菜によりピザ作成などの自然体験の提供、新鮮野菜をたくさん、片手でテイクアウトでき、かつ食べ歩きができる６次産業化・商品開発・提供、ポップや可愛い宣伝や商品配列の必要性を強く再認識できた。

フルーツフラワーパークの集客の一つとなっているイルミネーションは、民家が周辺になく、時間・機関・内容をそのまま本市に持ってくることは不可能だが、クリスマスから１０日間程度、自然エネルギーにより、運動公園全体をイルミネーション化することで、本市でも冬場・夜における観光の核ができ、駅前も含め周辺に店舗出店のメリットもうまれると思われる。